

# 3 年学年通信

## 3 月号

貝塚市立第二中学校 第3学年

2013. 3. 4 発行

※ 保護者の方に必ず見せて下さい



### 卒業式まで、あと2週間を粛々と

3月です。卒業式まであと2週間となりました。登校回数は今日、そして卒業式を入れてあと9回です。

今この時期は「粛々(しゅくしゅく)」と毎日を過ごしてほしいと思います。「粛々」とは、「ひっそりとしずまり、おごそかで厳粛、つつしみうやまうさま」のことを言います。

皆さん一人一人には、これから卒業までの2週間でそれぞれやるべきことがあります。進路先がこれからの人は、今まで通り粛々と毎日の学習を続けて行きましょう。不安や焦りで心が乱される事のないように粛々とやるべき受験勉強を進めましょう。進路先がすでに決定した人は、授業を粛々と受ける事でこれからの人を静かに応援し、かつ卒業式までの学年の取り組みを粛々と行って行きましょう。具体的には、残す言葉の作成、卒業ノートの製本活動や環境整備活動、さらにはお楽しみ会の運営など、時間と気持ちの余裕ができたことで出来ることを、みんなのために頑張してほしいと思います。入試は終わっても、中学校の学習活動は今まで通りです。あなたは「粛々」とあと2週間を過ごすことができますか？

### 気持ちをきちんと言葉で伝える

ある本から…

「目は口ほどにモノを言う」と言われていますが、果たして、本当にそうなのでしょうか？ あなたが毎日、3年間通い続けているラーメン屋さんで、毎回、味噌ラーメンを注文していたとします。お店の大將は、あなたの目を見ただけで「今日も味噌ラーメンだな」とわかるほど、あなたと大將の間には「以心伝心」が成り立っている関係。でも、ある日、あなたが大將の目をじっと見ながら、心の中で味噌ラーメンをイメージしながら「今日は塩ラーメンで」と注文すると、出てくるのは

もちろん塩ラーメンであって、味噌ラーメンではありません。目で訴える思いよりも、口に出す言葉のほうが、ずっと伝わる力は強いのです。

それについて検証した興味深いデータがあります。「愛している」「楽しい」「怒っている」「悲しい」という、それぞれの感情を、言葉を一切使わずに目だけで表現してもらおうという実験。それらの感情が実際にどれだけ相手に伝わったかを調べたものです。その結果、最も伝わったのは「怒っている」という感情だったのに対して、圧倒的に伝わらなかったのが「愛している」という感情。「怒っている」の伝達率80%程度に対して、後者はなんと1%程度しか伝わらなかったのです。

人間にとって1番伝えなければならない「愛」が、実は1番伝わりにくいものなのだとこの結果は教えてくれています。怒りの感情は、言葉にしなくても、目つきだけで伝わるのですから、むしろ言わないでいい。でも、愛情はあえて言葉にして伝える必要があるのです。「愛」に限っては「目は口ほどにモノを言わない」それが正解。「私の気持ちは、言わなくても伝わっているはず」と思っている、実際には伝わっていないことのほうが多く、その勘違いのせいで様々なズレが生じます。「目ヂカラ」を過信することなく、思いを言葉にして伝えましょう。

※卒業式に向けて、保護者の方に感謝の気持ちを伝えてみよう！

## 「有終の美を飾る」は「初心に戻る」こと

人権点検デーへの心構えの学習で「有終の美」の話をしました。最後に何をやるかは、実は簡単なことで、ただ「初心に戻ればよい」だけのことです。もう一度、この3年間で中学生として身につけるべきことを確認してみましょう。卒業間近、あなたは「有終の美を飾る」事はできるでしょうか？

- 「早寝・早起き・朝ご飯」の生活リズムができています。
- 遅刻をせずに、チャイム着席をする等、時間をきちんと守れる。
- 服装、名札、頭髪など、学校生活での最低限の校則が守れる。
- 掃除がきちんとできる。
- 朝読の時間にしっかり本を読める。
- 授業を真剣に受けられる。
- 家庭学習を行い、自学ノートを毎日提出できる。

